



作家  
元国際線乗務員  
**黒木安馬**

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)、『雲の上で出会った超一流の仕事の言葉』(あさ出版)などがある。  
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 253

## 伝統と信頼

Visiting old, Learn new……温故知新、古い伝統の中に斬新な発見。

**両** 国技館で大相撲初場所を観戦した。招待席「1-5」は向こう正面最前列5番で行司と審判親方に挟まれる位置、NHK放送で画面中央に映る超特等席だった。座布団に座ると力士の取り組みが始まり、鼻息が聞こえ、立ち合いの激しいガチンコは頭蓋骨が割れるほどの音がして汗しぶきが飛んでくる。力士が土俵からドーンと崩れ落ちてくる。危ない!と身構えるが、審判親方ものけ反りながら私に巨体を傾けてきたから堪らない。眼鏡がグシャッと潰れた。

**力** 士のチョンマゲや仕草に興味が湧く。二階席まで1,000人以上の観客がいるのに場内は咳一つ聞こえず、どよめきと拍手の怒涛はあっても、コロナ対策で声援は無し。アナウンスと行司の声以外は、力士も静寂が延々と続く。激しい立ち合いと声ひとつ立てない“静と動”。勝ち名乗りを受ける時も無表情のまま、賞金も手で“心”の字を描いて頂く作法。ここは自己主張を表に出してはいけない世界。起源は712年の『古事記』に書かれている「神様たちの力くらべ」神話にある。相撲は農作物収穫を占う宮廷儀式で古代から続き、鎌倉時代には武士の戦闘訓練として行なわれ、信長は相撲を好んで催して勝者を家臣に召し抱えた。江戸の平和時には歌舞伎と並んで庶民の娯楽になった。土俵入り、番付表、化粧まわし、チョンマゲ、着物、取り組み……時が止まっているかのように1500年も続く伝統の大相撲。華やかな様式美と格式ある礼法を重んじ、正々堂々と技と力を競い合い、所作すべてに神に捧げる神聖さが込められ、土俵入りは神様に奉納する儀式。四股を踏むのは土中の邪気を追い出し、脇を挙げるのは武器

を隠し持っていない丸腰を示す。力士の振りまく清め塩は、1日に45kg、15日間で650kg、米俵11俵分。結びの一番の勝者に代わり、作法を心得た者が行なう儀式が勝者の舞である「弓取り式」。静と動の神事は、まさに日本文化の粋を極めたものだと感動した。

**帰** り際に、通勤電車の中で、寂しそうに窓外に目をやる中高年の紳士を目にして、ふと思う。新しい酒は、新しい革袋に……それは革新と新化には欠くべからざるものだろう。では新しければ、古き良き伝統を切り捨てて良しとするのか? 確かに、斬新な発想、革新は破壊から始まる……それが今日の世界を作ってきた。世の趨勢は、経済効率最優先の新陳代謝をお題目に、老齢のベテランを退職に追い込んで若手と入れ替える人事の仕組みを作ってきた。60歳近くになると長年の貴重な経験で築き上げてきた役職を解き、平社員に格下げしたような部署へ配置転換をする。それでヤル気が出てくるだろうか? 逆に自尊心を傷つけられて会社に忠誠心が失せるどころか、反感と恨みしか残らない。老練ベテランは、長年培ってきた顧客との信頼関係で成り立っている。商品ではなく、あなたを買ってくれていたのだ。とすれば浅い経験<sup>じつ</sup>の若手よりも、ヤアヤアと長い間の普段着姿で昵懇<sup>こん</sup>の人間関係で結ばれていれば会社は十分に成り立つ。気さくにお茶飲みの世間話をしながら、「あなたが勧めるのであれば」だけで、老舗は十分にやっていける! 人は石垣、人は城、古き人財こそ信頼発展の基本財産、人手不足なんぞあり得ない。あなたの人格以上は売れない。観戦中にふと悟った収穫であった。インディアン世界では、60才でようやく一人前のMAN、80才でOLD-MAN、それ以上やっとならばWISE-MAN(賢人)なのである。